



みんなで育てる高松の子、みんなが育つ高松小学校

たかまつ

令和2年1月31日
練馬区立高松小学校 校報 No.559
校長 渡邊 万里子
TEL3999-3376

<http://www.takamatsu-e.nerima-kyo.ed.jp/>

●自ら学ぶ子

●思いやりのある子

●たくましい子

「たいりよく」を付けましょう

副校長 小貫 義智

子供の頃に身に付けさせたい「たいりよく」。すぐに思いつくのは「体力」だと思います。これは、言うまでもなく大切です。でも今日お話するのは、もう一つの「たいりよく」です。どのような字を書くのでしょうか。

答えは「耐力」。もともとは「物質が外からの力に耐える力」を指します。ですが、ここでは「子供の耐える力」として話を進めます。

作文を例にして考えます。ともすると、作文では内容や表現等に目が行きがちです。しかし、そこに行き着く前に高いハードルがあります。それは「文字を書くこと」です。

意外に感じるかもしれませんが、ですが、書くことは「鉛筆の芯」を「紙にこすりつける」という運動です。その連続が作文です。作文が苦手な子は、内容以前に「書き続ける」という連続運動に慣れていないため、耐えられない(=書けない)場合が多いのです。

では、どうしたらよいのでしょうか。慣れるしかありません。具体的には視写を行います。毎日10分程度、教科書等の文章を書き写していきます。最初は1~2行程度かもしれませんが、学年にもよりますが、続けていく内に10分で原稿用紙1枚くらい写せるようになります。その頃には書くことへの耐力も付き、作文を苦しなくなってきました。

耐力を付ける練習では、変化はかすかにしか見えません。面白味は少なく、苦痛を感じる場合も多いでしょう。子供は途中で面倒くさったり、やめたがったりすることが普通です。小さい頃にスポーツや習い事の経験がある方は、思い当たるのではないかと思います。

子供が嫌がったら、やめさせてもよいのでしょうか。「嫌ならやめましょう」と答えるならば、子供に必要な力のほとんどは、身に付けられません。さらに、子供は『嫌だ』と言えやなくていいのだ」と、考えるようになります。嫌でも何でも、必要なことはやらせるのが大人の役目です。

最近、学校への電話の内容が気になっています。それは「子供が嫌だと言っているから……」「子供が言うことを聞かないので……」とおっしゃる方がいることです。

子供にとって、難しい学習課題や友人とのトラブル等、学校での嫌なことやつらいことはつきものです。それらに立ち向かい、乗り越える経験は、そのまま大人になった時の義務や人間関係についての貴重な練習問題です。

2つの「たいりよく」がないと、将来、その子自身が困ることになります。家庭と学校が協力して2つの「たいりよく」を付けてきたいものです。

月	火	水	木	金	土	日
					1 校/図 14:00	2 校/図 14:00
3 全校朝会 校庭 15:30 図書 15:30	4 委員会活動	5 委員会活動	6 体育朝会	7 読書月間終	8 学校公開 新島地区連隊中校	9 学校公開 新島地区連隊中校
10 全校朝会 校庭 15:30 図書 15:30	11 建国記念の日 校庭 14:00 図書 14:00	12 体育朝会	13 新1年保護者説明会 (低4時間)	14 避難訓練	15 学校心健開祭り 校庭 14:00 図書 14:00	16 校庭 14:00 図書 14:00
17 全校朝会 校庭 15:30 図書 15:30	18 安全指導 兄弟学年遊び 校庭 15:30 図書 15:30	19 クラブ活動	20 音楽朝会 兄弟学年遊び予備日 校庭 15:30 図書 15:30	21 6年生を送る会	22 校庭 14:00 図書 14:00	23 校庭 14:00 図書 14:00
24 振替休日 校庭 14:00 図書 14:00	25 体育朝会	26 委員会活動	27 体育朝会 保護者会5年	28 保護者会6年 感謝の集い 校庭 15:30 図書 15:30	29 校庭 14:00 図書 14:00	

高松小の特別活動

特別活動主任 臂 美沙都

特別活動とは、学級活動、児童会活動、クラブ活動及び学校行事の4つの活動で成り立っている教育活動です。

学級活動では、学級内での集会を計画して実践したり、学級の中の様々な問題について話し合ったりします。「相手に分かるように話す」「相手の考えを受け止める」という経験を積み重ねることで、よりよい人間関係を築く方法を学びます。また、学級内の仕事を分担し、協力して生活することで、自主性や仕事に対する責任感を育てています。

児童会活動では、5・6年生で組織されている委員会ごとに、日々の当番活動や仕事に取り組んでいます。また、委員会発表では、クイズや劇を取り入れるなど、工夫を凝らした活動の報告が行われています。子供たちが考えたことは、最初から必ずしもうまくいくとは限りませんが、その過程で学ぶことを重視し、子供たちの自主的・自治的な活動を大切にしています。

クラブ活動には、4年生以上の児童が参加しています。学級や学年が異なる仲間と関わることで、自他のよさを認め合う機会が増えます。また、興味・関心のあることに取り組み、自分の可能性に気付くきっかけにもなります。

学校行事は、入学式や卒業式などの儀式、学芸会や運動会、遠足や移動教室など、さまざまなものがあります。1年を振り返ったとき子供たちの思い出の上位には必ず学校行事が入ります。高松小の子供たちは、どの行事にも「積極的に参加しよう」「頑張ろう」とする姿勢が素敵だと感じています。子供たちのパワーみなぎる姿が、高松小をより団結感のある温かい学校にしてくれています。

代表委員の活動を振り返って

4年間、代表委員として活動しました。どういふ発表をすれば相手によく伝わるかを一番考えました。丁寧な言葉ではっきりと発表したり、劇で興味をひき付けたりと工夫しました。今後も続けていきたいです。(6-1 小熊 結樹)

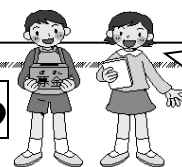
6年生になり、3回目の代表委員でした。毎年新しいことが増え、今年は「ワールドギフト」に挑戦しました。世界の人々の役に立つのは、とても気持ちがよいです。中学校でもこの体験を生かしたいです。(6-1 田村 明莉)

今年もユニセフ募金を行いました。このお金が生きていくのが難しい世界の子供たちのためになると思うと一生懸命活動することができました。これからも自分の手でいろいろな人々を助けていきたいです。(6-2 上松 夕記)

今年も、新しい取り組みにたくさん挑戦しました。その中でも「高小ハロープロジェクト」が心に残っています。あいさつをすると清々しい気持ちになります。これからもすすんであいさつをしていきたいです。(6-2 和田 怜奈)

初めての代表委員。運動会の太鼓送りでは、司会を担当しました。負けそうなチームを高小のみんなで応援できたことが嬉しかったです。全校の前で、パーフェクトあいさつマンを演じたのも思い出に残りました。(6-3 所 奏雄月)

他の学年の人たちと意見を出し合い、行事のスローガンを考えたり、全校に朝会の時間にお知らせしたりするなどなかなかできない体験をすることができました。責任をもって活動できて良かったです。(6-3 平岡 沙々)



ユニセフ募金に
たくさんのご協力
ありがとうございました！

2月の生活目標

寒さに負けず生活しよう

大寒が過ぎ、ますます寒さが厳しいこのごろです。その中、2月初旬の縄跳び記録会をめざして、休み時間に友達と縄跳びを楽しむ児童の姿が見られました。暑い夏に水泳等をして汗をかき、寒い冬に持久走や縄跳び等で体を鍛えることで、体力が向上すると言われています。高松小では、体力向上のためにも外で体を動かして遊ぶことを重視しています。休み時間は、校庭や体育館で遊ぶことが『みんなのやくそく』になっています。学校でも、ご家庭でも、部屋の中だけで過ごさず外遊びをして、寒さに負けない体づくりに取り組んでいきたいものです。

(生活指導委員会 島田 智子)